



古希野球の強豪 「阪神ロイヤルズ」って？

最高齢83歳 凡事徹底で週3日練習

古希野球の強豪が兵庫にある。年齢70を数えてもなお現役の選手たちが争う全日本古希軟式野球大会で、昨年まで4年連続で決勝に進み、優勝2度の「阪神ロイヤルズ(RY)」だ。社会人野球の第一線で活躍した猛者もいれば、定年後に本格的に打ち込み、開花した人も。強さの理由は何？



練習する阪神ロイヤルズの選手たち。動きは軽快だ



昨年の全日本大会で準優勝した阪神ロイヤルズの選手たち。決勝は延長十一回、1-2でのサヨナラ負けだった。阪神ロイヤルズ提供

2月下旬、神戸市内での練習を訪ねた。午前9時半、選層チームのメンバーも含め20人以上が集まった。ベースランニングにノック、シート打撃……。メニューの密度は濃く、テンポが速い。投げるボールは山なりではなく、スイングも予想以上に力強い。明るさともに、ひりつとした空気が漂う。最後はミートイング。捕手で助監督の繁田秀爾さん(73)を中心に、走塁に関するチームの方針を確認した。まずい走塁への厳しい指摘も出た。

古希野球とはどんな野球だろう。70歳以上による軟式野球で、兵庫県は盛んな地域の一つだ。2017年、県選層軟式野球連盟では14チームによる古希リーグを行い、翌年の全日本への出場権などを争う。投手と本塁間、塁間が通常より短いなどの違いがある。

阪神RYは1997年に選層チームとして活動を始め、2012年から古希リーグにも参戦。その年にリーグ優勝し、翌13年、65チームによる全日本で初出場初優勝した。14年の全日本は準決勝の最終七回に5点差を大逆転、決勝も逆転サヨナラ勝ちして連覇。15、16年は準優勝だった。

古希チームには現在、37人が所属し、最高齢は83歳。発足時から率いる加嶋和彦監督(76)は、兵庫・報徳学園高、関学大で活躍した外野手で、日本生命時代には社会人ベストナインに選出された。繁田さんも関大、松下電器(現パナソニック)でプレーした。

古希野球とは(兵庫県選層軟式野球連盟などによる)

登録資格は？	2018年4月1日時点で70歳以上
登録チーム数は？	235チーム(前年比20チーム増)、6027人(同957人増)
登録人数は？	兵庫は14チーム、398人。チーム数は群馬(26)、岩手(16)に次ぎ、大分と並んで3番目に多い
ルールの違いは？	・7イニング制で軟式球を使用 ・投手と本塁間16.3m、塁間25mと通常より約2m短い

登録資格、人数などは全日本選層軟式野球連盟への2017年シーズンのもの

なぜ強いのだろう。一年の割にはよく走れる。バリバリの経験者は少なくても、脚力や投げる力を鍛えられている」と加嶋監督。冬場でも週3日行う練習は、質、量とも豊富。全日本はダブルヘッダーが多い過酷な大会なので、体力も重要になる。繁田さんはこう強調する。

「正面のボールをしっかりさばく。一塁まで一生懸命走る。凡事徹底。当たり前のことを大事にしている」。高校野球のようだ。

育てる力もある。五十嵐信明さん(72)は元陸上部員。草野球程度の経験しかなかったが、銀行を定年後にチームに入り、俊足、強肩の遊撃手に成長した。

「ここで教えてもらい、育ててもらった」

強豪とはいえ、奇る年波に勝てない部分はある。指を立てて球種を指示する捕手から投手へのサイン。見えづらいと、グー、パーなどに簡略化することがある。伝達ミスを防ぐため、一塁コーチが走者に声でサインを伝えることも。「ばれたところで相手一塁手もさうしようもないや」と加嶋監督はにやり。遠近両用眼鏡をかけてのプレーでは目測を誤ることがあるそうだ。

古希リーグの開幕は3月13日。熟年球児たちの熱いシーズンが始まる。

デジタル版に動画 (竹田竜世)